

5月15日1979・No. 17

京橋の印刷

発行所
 東京都印刷工業組合
 京橋支部
 〒104 東京都中央区新富1-16-8
 日本印刷会館3F 電話 552-1855
 印刷所 八千代印刷株式会社



明治以後の京橋の概況 行政上は、明治元年に開庁した東京府の所管で、同一年京橋区が生れ、同三年に東京市が、昭和十八年に東京都が開庁し、その所管となる。戦後の二年には日本橋区と合併して中央区となる。人口は大正九年の第一回国勢調査では京橋区一四万〇七八八人、昭和五年三月現在の中央区は九万四三六一人で、かつての京橋区よりも少なく、都内では千代田区と並んで昼間人口と夜間人口の差が最も激しく、昼間は六〇万以上と言われている。

道路は明治六年銀座通りの改修にはじまり逐次改修され、関東大震災の復興事業による清洲通り、新大橋通り、昭和通り、晴海通り

などの当時日本の代表的道路が完成した。交通機関は明治五年、中央通りに乗合馬車、これが鉄道馬車に、更に路面電車になり多くの路線が区内を通っていた。戦後は、これも地下鉄、バス、高速道路などとなり交通の主要な役割を担っている。

工業は築地の今は移転しない官庁街から茅場町にかけ印刷・製本工場があらわれ、月島方面に石川島造船を軸に機械、食品、セメントの大工業が興った。

この写真は東京駅八重洲から商業の中心地銀座を経て築地、魚河岸、御浜離宮、隅田川、先月島、京橋地区から品川沖を。

— 提供は商工中金 —

目次

巻頭一言……………小宮山支部長……………	1
京橋支部印刷人青年会結成迫る……………	2
組合学校 (ハ)……………伊坂 一夫……………	5
△京橋地区のページ▽	
無 題……………尾島賢一郎……………	11
プリンティング・フェア	
TOKYOを見学して……………	12
△掌編小説▽	
給食センターものがたり……………	12
地区だより	
月島地区親睦旅行……………	15
告知板・支部の動き・編集後記……………	16

巻頭 一言

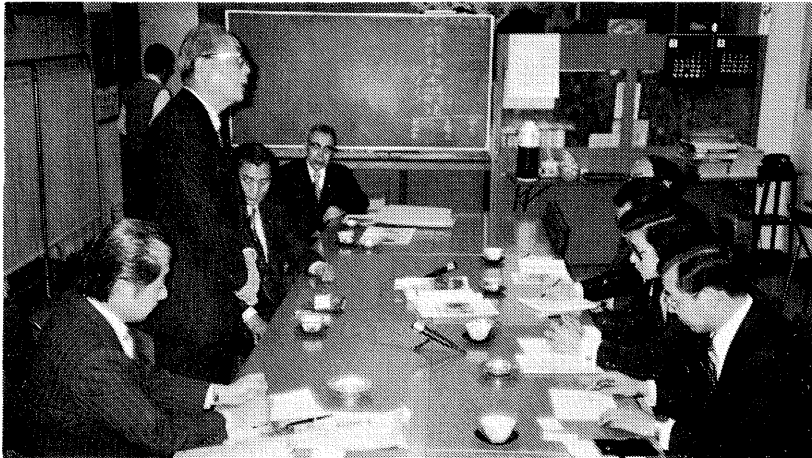
この稿を担当して一年、毎号的をはずれた、ある時は生硬にして無味乾燥、時には皆さんの懸望を買うような業界関連に乏しい内容も少なくはなかったかと、反省と同時に恐縮しております。さて地区新年会の席上、今年の展望として相変らずきびしい年であると云われているが、私にはそれよりも大変難しい年であると思うと、云われた某先輩の所感が、不思議な程耳の底に残って離れない。皆さんの感想は如何がでしょうか。「不確実な時代」と評される現代ですが、果して確実な時代とは何か、またそのような感覚を受けるにふさわしい時代というものは、過去に存在したのかどうか、八十八夜の一刻そんな想いに浸って居ります。

準備委員の活躍

去る四月二五日(月)午後六時より、支部会議室には、九地区より選出された青年会の中核メンバーとなる準備委員が集合した。四月一六日(月)の第二回準備会に引き続いての規約原案の審議や、

6月8日 於・東京都勤労福祉会館

京橋支部 印刷人 青年会 結成 迫る



第1回準備会で要望を訴える小宮山支部長

青年会の性格づけ、方向づけについての意見の交換も行われ、いよいよ支部印刷人青年会の発会のための第一回総会の日程が、六月上旬と決定された。

五月の支部総会で発表され、支部の事業計画としても具体的に承認され、参加への協力が全組合員に要請される段取りとなったわけである。

今日までの経過を見ると前執行部より引継ぎ事項として青年会の設立が事業計画の一つとして懸案事項であったが、設立の具体的動きが行われていなかった。

五二年度の通常総会でも、五三年度の事業計画案に地区青年印刷人グループ育成として「支部の地区内で、まだ未組織の地区に積極的な組織取り組みを行っていただきたい。関係各位の一層の努力と全組合員の協力を訴えます。」と地区単位で青年印刷人グループを作りこれを合同した形式での支部青年会を志向していた。しかし一昨年に準備会が行われ規約の原案も半ば作られながら発会に至らなかった。

丁堀地区の17名を筆頭に、湊地区15名、入船地区10名、新川地区一〇名と一〇名を越す地区もあるが、組合員の少ない地区では、2名とか3名という地区もあって、支部内九地区全部に先づ青年グループを作るのは無理とも考えられる。と云って、第一の理由もあって少い地区は他の地区と合同してとか、すでにあるグループに入ってしまうのは不可能と考えられる。

このため、部長会、地区長会での審議も経て京橋支部青年会の組織は、地区青年グループの協力も得て個人加入を基本とする青年会の発足に具体的方向づけが決定された。

そこですでに支部より選出され、東京青年印刷人協議会の議員になっている京橋地区・尾島賢一郎氏(三徳印刷)、八丁堀地区・小倉昭夫氏(相互美術印刷本社)、新川地区・三好徹氏(三好印刷)、月島地区・岸健作氏(岸印刷所)の四名と、支部からは小宮山支部長、石曾根副支部長、小山副支部長、長島副支部長の四名が三月八日(木)に支部会議室で第一回の協議を行った。

支部長の要望は

これは、色々と理由も考えられるが、第一に、すでに組織されている地区青年グループは、それぞれに地区独自、会独自の性格をもち特殊性があつて、同質的な支部単位としての活動につながりにくいこと。例えば長い歴史をもつグループでは構成メンバーの年齢が高くなりすぎている。年齢の幅が広がりがすぎているといった点や、親睦を主体とするグループ、研究や事業の交流を主体とするグループなどの性格の違いなどが、それである。第二に、今年度の準備会を結成するために支部内での該当者を調査したところ、「支部組合員の後継者及びこれに準ずる人で、年齢四五才までの人」をメンバーとした場合、約八〇名近くがリストアップされたが、九地区別に見ると、八

支部長は特に「支部内の青年の和を拡げ次代を担う経営の最前線に立つ青年印刷人の交流の場が、一日も早く出来るよう青年会の設立を進めて欲しい。」と要望

され、先ず会の早期発足が討議された。次いで四月六日(金)に第二回打合せ会が開かれ、東青協の前記議員と支部からは担当の長島副支部長、アドバイザーとして小山副支部長が出席した。小倉氏より規約案の骨子が提示され先ず会の性格について検討がされた。そして支部青年印刷人が主体性をもった会であること支部と協調し支部としても強力な援助をすること、地区グループの協力を得て組織するが地区グループの集合体としての青年会でなく個人での参加による青年会を組織する方向づけが決まった。加入に当っては地区を中心に、地区長会を通じて先ず九地区より設立準備委員を選出して今後の準備会を行うことになった。

設立趣意書の起草

四月一日(水)の地区長会には、岸氏が担当して出来た趣意書が地区長の手元に配られ、各地区より少なくとも一名の準備委員が四月一六日(月)の準備委員会に出席するよう要請された。趣意書には「低成長時代に変わった日本経済に対応し、印刷業界も変革に迫られ過当競争が激化する中で、今ほど時代の流れを適確に読み若い実行力と各青年同志の絶間ない自己研鑽が必要なのは、青年同志が結束して共通する悩み、喜び、考え方を話し合う事により、個々の

力ではごく小さな力でも青年同志ましてや京橋地区青年の力を結集したならば素晴らしい力になるはずで。素晴らしい解決策も生まれるでしょう。」と力強く結んである。

こうして四月一六日(月)午後五時半より各地区から推せんされた委員で準備委員会がもたれ、規約の審議、発会式へのプログラムがスタートした。

この日は、東印工組の戸塚総務課長より、他支部の青年会の現況説明を受け、当支部青年会発足に当たっての参考になったが、特に「千代田支部の新生会は歴史も古く、支部との関連も深く現支部の執行部は殆ど新生会のメンバーが母体となる現況で、勉強主体の会として互に切磋琢磨し、入会審査も厳しく立派な会として運営されている。」といった話は印象的であった。又当日地区青年グループのリーダーとして深い経験を持つ入船地区小栗地区長が出席され、入船地区二世会の設立経緯と現況を説明され「今後京橋という広い範囲での青年会が出来れば、お互いに知り合いも多くできて、将来の支部運営にも若い力が結集することになる。」と期待され激励を受けた。

規約の審議では、年令を40才までとするか45才まで引き上げるかに意見が別れ結論を次にのばした。又会費については、多くの参加という点で月額千円が考慮され一応の内定はみたが、さて支部から青年会への事業予算がどの程度援助で



東青協議員の熱心な討議、左から三好、尾島、岸、小倉の四氏

あって、必要経費はその都度臨時に集めても会の発足を第一義にしようということになった。

次回は、四月二三日(月)に準備会を開くことにし、なお地区内の準備委員となれる人の出席も増員することで散会した。

第二回準備委員会は四月二三日(月)午後六時より開かれ月島の岸氏が議長となり八丁堀の榎本氏が書記として討議に入った。

前回でも問題となった第五条の会費額について、前回は一応月額千円と決められたが、会の性格づけの意見も含めて当日の活潑な審議の一端をご紹介してみたい。

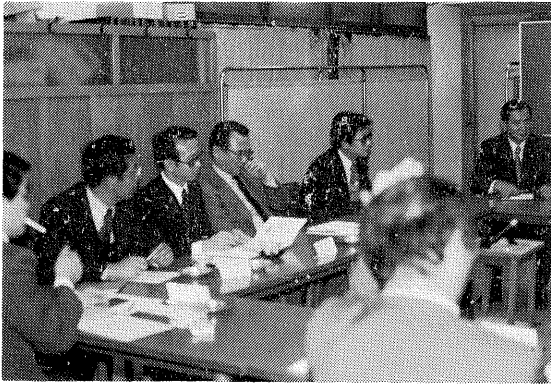
堀江委員 会の事業計画の内容により会費の用途を立てる必要があるのではないか。

小倉委員 単なる親睦会ではなく、主眼は勉強会に置きたい。方法を工夫して費用を少なくしたいし、多くの人達の参加に意義がある。

三好委員 会費は一度決まると今後アップするのは仲々難しいと思う。安いに越したことはないが、運営上やはり最低ラインは必要である。

尾島委員 ポイントを絞った会をスタートから位置づけ、その結果会費が高くとも参加する人達の集りとした方が良いのではないか。月額二千円の会費は必要ではないか。

きることの質問に、支部全体の事業予算が一〇〇万円これで一年間の全事業をまかなうという現況が説明され、予算的に支部に大きな期待は出来ない一瞬白けた雰囲気があったが、支部としても青年会は将来への布石となる大切な事業なので、物心両面のできるだけの協力は惜しまないとの姿勢が示され、又一部委員からは、財政的に支部に寄りかからすぎるのも青年会の独自性という点からみて好ましくない面もあるという発言も



上・第三回, 下・第四回準備会で白熱の討論

松川委員 京橋に今まで青年会がなかった。先ず会を作りスタートするところが最も意義がある。会費・規約について余り最初から考えすぎない方がいい。

羽生委員 先ず実績を作ることが必要でそのためには、最初のスタートは小さくても良いのではないか。会費も少なくて始め、参加が増えてきて実際の運営上必要であつたら会費を増やしてはどうか。

岸議長 皆が参加しやすいスタートが眼となるだろう。小さいことから一歩積み上げてゆくのが良い。会の方向づけとしては勉強する会としての性格を強くしたい。

小山副支部長 他支部の状況では、「遊びの会は永続しない」ということであり研鑽努力する会にした方が良くと思う。支部としては会の性格を拘束はしないが、若い印刷人として我々の後を託すために青年らしい会を作って欲しい。その行動のバックアップを支部としては積極的にやる。

△全員▽ とに角スタートすることを第一義にしよう。細かい規約は、総会で決めても良いのではないか。

年令制限は45才未満とし六月上旬に総会を行なう。

△岸議長▽ 五月二一日(月)に総会準備会を決定します。テーマの一つとして事業計画を中心いたしますので各自事

業計画案をレポートにまとめ五月二二日(土)までに提出して下さい。

以上が準備委員会の様子のごく一部であるが、各委員とも活潑な議論が進められ、さすがに青年の集りらしく初対面でも憶さずに発言が飛び交っている。

発会準備進む

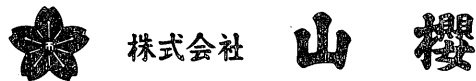
とに角支部青年会の発会も間近になったわけであるが、既に出来上っているグループをまとめるのではなく、それこそ一面識もないメンバーが集って新しい会作りをして今後の研鑽を進めようというのだから細かい準備の積み重ねが必要とされる。支部内の青年会メンバー該当者への参加推進に当って、地区長会の強力な援助と、全組合員の深いご理解がいただける様をお願いして経過のご報告したい。

なお準備委員の方々の熱意に敬意を表すると共に良い会が一年一年と続けられ将来の支部発展と企業繁栄の礎ともなるよう祈るものです。

各地区よりの選出準備委員

- 京橋・尾島 (三徳印刷) 銀座・杉山 (正栄堂印刷) 新富・小林 (信誠印刷) 築地・神田 (永和堂) 入船・羽生 (羽生印刷所) 湊・松川 (松川印刷) 八丁堀・小倉 (相互美術印刷本社) 榎本 (榎本印刷所) 新川・三好 (三好印刷) 堀江 (三秀社印刷所) 月島・岸 (岸印刷所)

山 桜 製 品



本社 東京都中央区築地3-2-9
電話 542-8511 (大代)

工場 東京都昭島市大神町1046番地

支店 神田・中野・五反田・浅草・板橋・亀有
墨田・蒲田・横浜・千葉・大阪

三菱製紙特約店

株式会社 三和洋紙店

本 社 東京都中央区入船3丁目4番1号
電話 東京 (552) 2731番 (代表)

組合学校

(八)

伊坂一夫

出版

昭和三三年ドルッパ印刷展でオフセット印刷機ミラーの両面機の模型を見て、すばらしい着想だと驚嘆しました。

アメリカ経由で渡欧して、ローランドオフセット印刷機の素晴らしい性能を聞きました。何故かドルッパでは、充分見られませんでした。一説には日本人は模倣が上手だから、日本人には見せたくないような様子でした。今から考えると、おかしな事でした。

× × ×

香港には二色のローランドが入っている、というのが是非見たいものだと思っています。

ジエトロ主催

日本印刷機械展

バンコックで開催され、日印工主催の東南アジア視察団が編成され、共同印刷社長、日印工会長大橋貞雄氏が団長となり、新村長次郎氏、長島達雄氏、草刈親雄氏、工業会の井関氏、木村氏、機械工業会伊東氏、インキ工業会榊原氏、伊坂一夫、伊坂元延の一〇名であった。



印刷人南へ行く

四年に一度しかない二月二九日という日、午前一時三〇分スカンヂナビヤ航空でバンコック向け出発。撰氏一五度である。機上より見る富士山のきれいなこと、始めての東南アジア行きで喜びと不安が入り交る。

緯度が南に近づくにつれ、翼に反射する日光は眼にいたい。また、雲の美しいこと、まるで雪の上をすべっているようだ。

五時前にマニラに着陸、私達の下着は冬物、洋服は夏服、予想したほどの暑さではないが、現地人は半袖で原色が目立つ、送迎デッキに見物人が多い。小休止の後、再び並び立ってバンコックへ。

定刻五時半(時差の関係上、日本では七時半)到着。撰氏三二度とのこと、税関を通過して市内へ向う。広い田舎道とばして行くこと約四十分。途中で驚いたのは、「味の素」「仁丹」など大きな広告、自由化に心強い。市内には、ブルーバード、コロナ、コンテッサ。安いタクシーではダイハツの三輪車。オートバイはホンダと、今朝たった東京都内と変わらない。そのはず、85%が日本車と聞き、まず胸を張る。

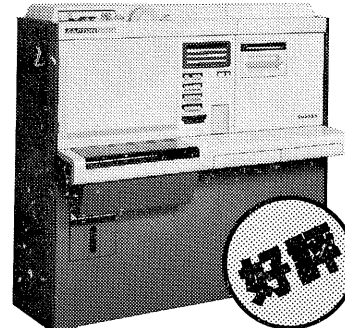
ラマホテルで夕食をとり、九時頃「タイ踊り」を見にゆく。建物は田舎芝居のような小さな小ぢな小屋である。打楽器の伴奏で特有の服装での踊りは印象深いものであった。フィナーレに全員起立で国歌を吹奏するのには感心した。

エメラルド仏陀

翌日は、腕の時計は三月一日日曜日を示している。何しろ暑い。六月一日ではないかと思う。国宝のエメラルド仏陀を参拝する。全体がエメラルドで作られ、

各地で続々導入中!! SAPTON-Somanechi

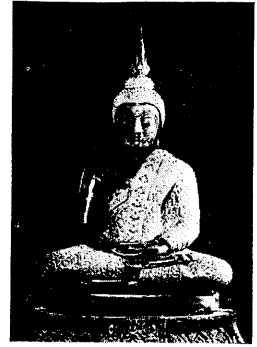
電算写植機サブトソマネチが今、「経営の合理化と売り上げアップ」の旗手として絶大な人気を博しています。"多量少量の組版でも採算がとれる"ことから、東京をはじめ各地の大手・中小印刷会社・軽印刷会社でも続々導入中! 「電算写植を入れても……」の不安を解消しました。



好評



東京都豊島区南大塚2-26-13千170 ☎(03)922-2211 ●札幌・仙台・金沢・静岡・名古屋・大阪・広島・福岡



エメラルド仏陀

年に三回夏服、冬服、雨季の服と国王の手によって着替えをされる仏像。ただその美しさに見とれる。また、純金の仏像も見たがまばゆいばかりである。バンコックは仏教国の首都だけあって、たくさんお寺があり、非常にきれいなことが旅の汗を拭ってくれる。

翌二日は六時起床、七時から水上マーケットを見学、東京ならさしずめ出勤ラッシュアワーという時間だろう。カヌーをのどかに漕いでご出勤のお嬢さん方に出会う。

バンコック印刷

午後から本命の印刷工場を見学。二百人位の大きな工場で、オフセット、活版の設備があり、社長は清涼飲料水のセブンアップの仕事もしているようだ。日本のR印刷(大阪)の技術指導を受けていて、派遣されている邦人が一人いた。機械は日本のは、三起(大阪)と小森の手差しがあり、新しいのはハイデルなどヨーロッパものだ。

つぎに見た会社は、息子さんがアメリカの印刷学校へ留学して来た由、今度大

日本スクリーンの機械が三階に入ると張切っていた。

夕方七時からジェットロ主催の日本印刷機械展の開会式があって一行参加する。常設の陳列場を持っていて三〇会社が機械器具及び原物見本の展示があった。六〇人以上の来会者があって室内は暑い上にも暑く閉口したほどの盛会であった。

クアラランプール

三月三日ヒナ祭りの日、マラヤ航空機でマラヤ連邦の首都クアラランプールへ向う。十一時出発の予定で出国手続をすまして待っていると「都合によって二時出発になります」と知らされたが、今更市内にもどる訳にもゆかず四方山話で時を過ごした「これが本当のタイ、い、く、つだ」という笑話も出た。

四日は朝



五本足の牛

から、市内見物。世界に一匹しかないという五本足の牛を見、ゴムの林を通り、日本軍が自転車でシンガポールへ進入したと聞く道を通った。

午後、政府の印刷局を見学する。従業

員は五百人程、ハイデル、ネビオロ、ライノタイプ、モノタイプ……ざらりと並んだ偉大な活版工場である、ここでは日本の凸版印刷に研修に来ていた青年の案内を受ける。

二軒目は小企業だが、ハイデルが数台ある。日本の物は片隅に八光の鑄造機が一台。それもワンプをかぶせて淋しい感じだった。

シンガポール

五時半離陸、マレーシア航空でシンガポールへ向う。汽車だと一〇時間かかる所を七時半には着く。夕食後同行の新村氏とタクシーで波止場へ行く。

五日、シンガポール市内見物。東芝、ナショナルの広告は良く見たが日本車の走るのは見ない。理由を尋ねると下取り市場が狭いから、他の国の車になる由、輸出に強い場所、弱い場所を感じる。

山下將軍が「イエスカノー」と会談したフォード会社。ジョホール水道に英国に橋をこわされ日本軍が泳いで渡ったときとく。河。英軍が水面に油を流し、火をつけたとか。河が真紅に血に染ったといわれる古戦場。案内の婦人は日本へ来たことのない日本人でわかり易い日本語で話したが当時を偲んで暗い気持ちになる。

午後は政府の印刷局へ行く。感心したのは機械の扱いを大切にすること。退社する時は布をかけて帰る。この所長さん

作業交流は支部組合員に

オフセットによる複写帳票類・端物印刷は安心してまかせられると定評ある当社へどうぞ

●ハイデルKORD(A2)ダビッドソン700S(A3)

有限会社 中山印刷所

湊2-7-7 TEL. (551)2937(553)6796

オフセットはハイデル

A3判単色、多色、多色両面機から、菊全判多色、多色両面機まで豊富な機種。



グラフィックアーツの総合商社
印刷機械貿易株式会社

本社 大阪府寝屋川市豊里町1番4号 TEL.0720(32)0441 千572
東京営業部 東京都品川区南大井3-21-4 TEL.(763)4141 千140



シンガポール印刷局長と共に (夏姿にご注意)

は四月に来日されるそうだ。
 夕方は印刷工業会主催のテイパーティーに出席。正装するのが暑くてわずらわしい。
 夜は、さっきのガイドさんであるミセス平山の経営する、日本食堂で食事をした。さしみ、味噌汁、天ぷら、ご飯、この南方で食べるとは思いがけなかった。しかし味は内地の日本食とは比べ物にはならない。
 シンガポールの警察は弱体で、失業者も多い。殺人強盗など犯人は殆んど拳らぬ由。殺伐たるもの、昨夜の散歩も今から思えばゾットする。
 六日は九時五〇分、パンアメリカン機で飛立つ。今回の旅行中、最も大きく且

つ快適である。サイゴン経由でマニラに向う。

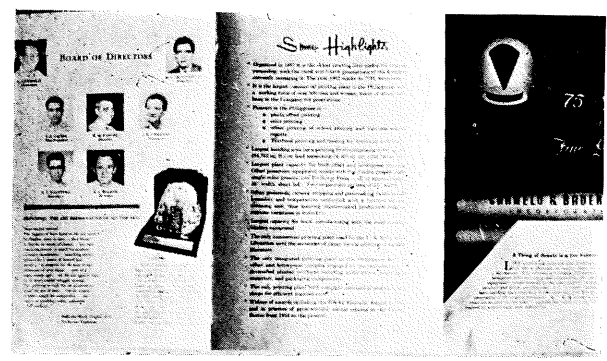
乙 姫 様

サイゴンではベトナム問題で飛行場の写真を書すことを禁じられている。ガイドの風俗がきれいだったが、浦島太郎の乙姫様の服装はこの女性がモデルだそう。

東南アジアを見て感じたことは、華僑の勢力の強いこと。さまざまな国の人種が生活している。特に印度人は暑さも厭しいためマレーに出稼ぎに出る。日本人や印度人は一旗挙げると故郷へ帰るそうだが華僑はガメツク根をおろすといわれる。

また、日常使う電気製品は日本製品ばかりで、日本の技術と国民に大いなるあこがれを持っているそうだ。印刷は日本と香港が良いといわれ、大いに日本人であることそしてその職業にたずさわっていることに誇りを感じた。

サイゴンから、一、〇五〇K飛んで二時一〇分フィリッピンのマニラ国際空港に到着、税関がすむとフィリッピン印刷組合の代表の歓迎を受け、活版印刷された歓迎ブローIP (重要賓客) を渡された。急にあらたまって肩の荷を重く感じた。打合せをして車で海岸通りにある宿舎フィリッピナスへ到着した。通り道を説明されたが海の彼方に薄く見える丘陵がボタン半島と聞いて戦争の音がきこえる



マニラ印刷工業会長の工場案内


ような気がする。部屋が新村、草刈両先輩と隣同志で中間の扉が簡単にあって往来できるので心強くなった。旅装を解いたり、葉書を書いたりして七時に出迎えを受けて機械販売業者の主催による晩餐会に業者幹部と出席、日本に来たことのある人が数人いるので非常になごやかで、余興に日本の歌も歌われて、何んだか銀座あたりにいるように感じられた。

マニラの印刷工場

三月七日(土) 出迎えの車に乗ってマカチ地区のカメロバウマン印刷(マニラ最大)に到着。一昨年出来上がった工場

**生産性の「拡大」に
「コニスーパージェン」がお応えします。**

毎時1万枚の超高速菊全判オフセット印刷機 2・4・5色機

 **小森印刷機械株式会社**

本社 東京都墨田区吾妻橋3丁目11番1号 〒130 ☎東京 (624)7161番(大代表)

で、社長室からは一階の工場が一目に見渡せて、間仕切のアカデオンドアをあけると、すぐ会議室があり、その隅にドリンク・コーナーが設備されてあった。同社は一八八七年創立され、今年で七十七年。現社長のオルデベザア氏(フイリッピン印刷工業会長)が三代目で、四代目の令息はアメリカに五年留学して来て、現在は技術面を担当して、工場長を勤めている。

社長の案内で製版部、オフ印刷部、活版印刷、活版製版、製本部とみて廻った。四エーカー(約五千坪)の敷地内に二エーカーの平屋建ての郊外理想的工場であった。製版も印刷もオフの方は仕切られて、温度も湿度も調整されていた。ニス加工をする室を見て最後に工場の裏側に行くと紙の受渡場があって、ここは紙倉庫と巻取り断截場と連接されて左から工場を一周すると入った紙が製品になって搬出されるように設計してあった。

従業員数四〇〇名(二部制を一部採用)平版製版ではクリムシユカメラの他に大日本カメラも置かれ、欧文ホトセツター(ライノタイプ社写真植機一六万弗)が備えつけられていた。

平版印刷機は会社の歴史を語るように三グループに並べられ最近の部類にはローランド、マンが入っていた。現在米国で印刷している教科書も段々自分達が作るのだと張り切っていて、現在は平版七〇%、活版三〇%の生産量で活気にあふ



リサール記念館前の一行

れていた。

第二の見学会社のキャピトル出版印刷会社は、既設建物を利用したものか広い敷地の内に数棟の版別印刷工場があって週刊誌やケース等を印刷していた。元住吉の米軍工場で見たウエーベンドルファ一の小型オフ輪転八色機が三台もあった。

昼には由緒あるコロムビヤ・クラブへ案内されて印刷工業会主催の昼食会に出席する。食事が終わるとすぐ引続いて明年マニラで開かれる第三回アジア印刷人会議について協議する。開会式は二月二〇日(土)大統領によってテープが切れ、会議は四日間、展示会は一〇日間位で日本の大いなる協力を期待されてい

た。続いて会議場および展示会場を下見した。

次に第三の見学工場、マニラ印刷組合理事長のベニバヨ氏の経営するリーガル印刷へ行く、従業員一二九名程の中堅工場、平版、活版の総合工場、氏の指揮によるファイトに充ちた工場であった。

スター商会(印刷機械輸入商)に立寄りココローラーをご馳走になって、社内展示場を見たが日本製の機械が半数以上あって力強く感じた。

世界的に有名な「マニラ湾の日没」をみる。雄大な海、灼熱をとかしたような太陽。その反射する海面は想像以上のものであった。カメラにおさめてホテルに帰る。

ホ ン コ ン

三月八日(月)午前市内見物をして午後四時三十分マニラ発、一、〇〇〇Kを西へ飛んで六時十五分アジア大陸の自由港、香港に到着。

十八階のプレジデント・ホテルに投宿。ロビーで交換した香港一ドルは日本貨六十三円で米貨の66弗であった。香港は気候不順と聞いたがマニラから着くと非常に涼しく、半袖シャツ姿ではむしろ寒い程であった。

三月九日(月)午前中にホテルの地下と街の中心地と思われる前通りを散歩しながら買物をした。大日本インキの古屋

業界のトップメーカーで 全国で一番よく使われている!

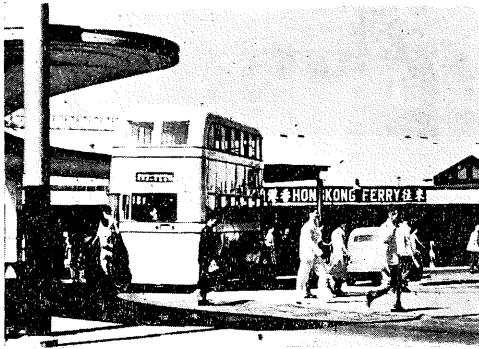
ハート印 [名刺用紙・私製はがき・招待状カード・封筒 株券用紙・賞状用紙・荷札・のし紙・カレンダー] 発売元

ハート株式会社

東京東支店

135 東京都江東区冬木15番10号 電話 東京(03) 641-1153代表

本社 540 大阪市東区南農人町2丁目39番地 電話 大阪(06) 942-2321番(大代表)
支店 札幌・仙台・東京西・東京南・東京北・静岡・名古屋・金沢・京都・神戸・岡山・高松・広島・福岡



香港フェリボート埠頭と二階バス

香港支店長が見えて、明日の印刷工場
の参観手配を頼んだ。

午後五時、マイクがバスを南に向って乗ったまま渡すフェリーボートで対岸の香港島につく。古めかしい賑かな海岸通りを少し走って、ヒルトン・ホテル前にて下車する。八四年前(一八八〇年)建造された東洋最古のケーブルカー(箱根強羅式)に乗って島の一番高いビクトリア峰に登る。十分位で頂上につく。見晴台より香港、九竜の市街と港、飛行場を一眺に見下したが、東洋貿易の中心地の盛況が感じられた。

下りバスで、来た道と変わった高級住宅地やゴルフ場のある自動車道を下りてタイガーパークを経て香港名物の竜宮殿

(シーパレス)で魚貝の夕食をした。タイガーパークでは幼い中国の物売りがシッコク押売りをし、花売り娘のようだ。商売にはこの位のファイトが必要だなアと思ったトタンに絵葉書とスライドを買わされた。

午後九時より夜の観光に出かけて九竜の見晴台から香港島の夜景と支那劇の景物を見た。世界の三大夜景に数えられる香港の夜。地形に利されてネオンがまばゆい。ちよっとくどいほどの色彩も、世界に進出しようとする華僑の商魂、国際的に集る貿易の隆盛の表われだろうか? 広くもない香港島と九竜半島が一つになって、東洋の商業地としてのファイトにかたまっている。

お 別 れ

三月一日(火) この旅行もいよいよ残り少なくなった。六時に起きて荷物の整理をした。昼には解団式がある。今まではアルコールは自弁だったが、今日は腹一杯に食べても飲んでよいバイキング形式なので、朝食はぬきにして昼に備える。(午後には工場見学があるので充分飲めなくて残念)

十一時にロビーに集って、東洋には珍しい二階建のバスに乗り、(特に指定して)階上に乗って会場へ行く。予定通りお別れパーティをする。同業や関連業者だし、東京では何かと会う仲だ、十日間の「旅は道連れ」に親しさも増し賑やかであった。今日帰国される方、台湾へ寄る方など出発され、我々親子丼が工場見学のために残った。

昨日約束した古屋氏が中型オベルの新車で迎えに来て下さった。氏は一月末赴任され車は二月に買ったばかり、会社の事務所に行き、中国人の支配人と会った。現地の中国人を上手に使うのは大変だ。手配された見学工場に向う。

ホンコン印刷工場

(1) 二天堂印刷訪問

香港第一と折紙つきの印刷工場で、漢字と、英字の日刊新聞、週刊誌や美術印刷をしている。工場長の案内を受け、申し込んであった空気調整設備と活字の漢字配列の一部をみた。オフセット室も通った。フェヤーチャイルドの八色輪転機や二色のローランド印刷機、M、A、N、印刷機があった。見られたのは工場全部ではなかったもので物足りなかった。

(2) 永発印刷へ行く

工場長の先導でローランドおよびウルトラ・マン印刷機室や製本室を見物した。広い工場のようなだが、非常に簡単に質問する暇もない。

(3) 南華印刷公司を尋ねる

能登プロ社長の紹介を受けてあるので、連絡もなく立寄りシャオ専務に面談する。

香港第一の製版技術を持っている。

写植のことなら何でも...

- 各種写真植字機
- 写真植字文字盤
- オペレーターの養成<写植スクール>
- 版下マンの養成<フィニッシュワークスクール>

株式会社 **モリサワ**

東京支店 東京都新宿区下宮比町15-5 〒162 ☎03-267-1231

四六四載オフセット

オリバー 8

軽快、高速、重装備

580×440、10,000枚/時

姉妹機：オリバー6 菊四載

オリバー12 菊半載

桜井機械販売株式会社

〒135 東京都江東区福住2-2-9

電話 (03) 643-1131



中共との国境風景

フエリポートに自動車のまま乗って、九竜半島に渡り、六時にホテルへ着くと、凸版印刷の茂本支社長(印刷機械の耐用年数で数年間一緒に苦勞した仲間)印刷技術にも明るく、管理のエキス

……など有益な話を聞き、先に行った(1)(2)の工場で警戒して見せたがらない理由が分った。それにしても古屋氏の案内がなければ建物へ入ることも出来なかつたかと思われる。したがってこの社の見学も、印刷室のエヤーコンデションを見ることがだけにして迷惑をかけないようにした。

ロ 戦後に上海から移ったが信用を積み重ね、海外の華僑向けの仕事を市の中の仕事と半々とのこと。香港には総べて上海系と広東系が交叉している。
ハ 凸版印刷、大日本印刷の香港進出で土地の人は、同業組合で、日本人の工場見学お断りの申し合せをした。

パートで敬服している方)が待っておられた。インベリアルビルの十八階にあるトウキョーレストランで五日ぶりに日本の酒を傾け、日本食を囲んで旧交を温め、香港の話聞いて海外進出のご苦労を知った。茂木氏を送って、美味しいアイスクリームをご馳走になりホテルへ帰ったのは九時半であった。昼に飛立った方々はもう羽田の土をふまれた頃である。

中共との国境

三月一日(水) この旅行の終りを告げる朝食をホテルの食堂でとり街を散歩する。昼に再び古谷氏の迎えを受けて新領地域へドライブをする。時速八〇哩(一一〇キロ)まで許されるハイウェイ、その雄大さにかつての米国旅行を思う。両側はのどかな田園風景だ。広々とした平野はまだ土ばかりだが、芽の青ばんだ頃は美しいだろう。露天の「蛇籠り」なども見て、中共との国境線へ行く。地続きの踏切開閉機が国の境とは? 湘南の葉山によく似た景勝地、青山のホテルでサンドウィッチを食べ飛行場へ送られた、話に聞くより簡単な出国手続をして、お土産に都内では手に入らないウイスキーを買い、ヨーロッパから来た日本航空機に乗り、四時に空の人となった。東へ向うので時差があり一時間時計を進め九時十分には羽田へ着陸する。いたいた見馴れた顔が、荷物を受取るの

もどかしく、ガラス張りの中から出迎える顔を見る。税関をスムーズに通ってみんなと握手をすると、東南アジアの旅も終る。五都市を訪問、十二工場を見学したスピード旅行も恙なく十二日ぶりに青畳の上に家族と共に眠りについた。最後に各国の特長をいろいろ見たが、日本人の才能、技術を高く買われているのを見て、大きな誇りを感じるとともに、我々がもっと日本のよさを知って感謝し、国を愛する気持ちにならねばならぬと思った「多謝」。

東京印刷工業組合

昭和三〇年代の我が組合は二〇年代同様、理事長の交代が激しかった。

昭和三三年四月、東京印刷工業協同組合と東京印刷工業調整組合が合併し、東京印刷工業組合となり、向喜久雄氏理事長に就任。

三三年六月、全国印刷健康保険組合設立、理事長向喜久雄氏

(東京印刷健康保健組合は昭二八年六月設立)

三七年四月、浅野剛氏東印工組理事長就任。

三八年五月、日本印刷会館竣工。

三八年九月、浅野剛理事長辞表提出、長宗副理事長理事長代行となる。

三九年四月、長宗泰造代行、理事長就任。
次は昭和四〇年代に移ります。

「ここに鮮やかな一枚」
ノーカーボン紙
レジンCCP
十條製紙
〒100 東京都千代田区有楽町1-12-1(新有楽町ビル)
TEL. 東京(03)211-7311

日本を代表するインキ
TOYO KING
ULTRA70
東洋インキ

無題

尾島賢一郎

ホワイト・ハウスには毎週最低一人以上の世界各国の元首が訪れ、大統領と会談するそうである。すなわち、アメリカの大統領は年間に少なくとも52カ国以上の元首又は要人と会う事になる勘定でも大変な事である。しかしアメリカは世界の一方の極であるからそれも当然であるかも知れない。

日本の大平首相も五月の連休をはさんで訪米、カーター大統領と会談し、お互の率直な意見の交換をして帰国した。大平さんもそうであったように、ワシントンを離れる前には必ず「プレス・クラブ」でスピーチをさせられるのが常である。各国の海千・山千の元首もこの時は緊張し、中にはコチコチになって随員をハラハラさせる光景がしばしば見受けられるようである。

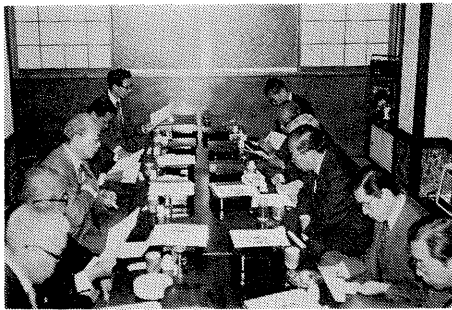
記者魂とは批判と反論がその源泉であると言われる。すなわち非常に意地悪なのである。しかし会議に参加する各国の記者連中も、自国の元首が演説する時はやはり抜目なく無難に、しかも早く終つ

てもらおう事を願うそうである。日本流に言うならば仲間に対してカッコウをつけたいようなものである。

大平首相はこのナショナル・プレスクラブで今迄の日本の首相とは違って英語でスピーチを述べた。又聞きではあるがアメリカ人記者に今度の大平首相の評価を聞いた所、大変に良かったと述べていた。すなわち英語でスピーチをした事はなく、非常に素直に自国の考えを表現した事についてであった。意見を聞かされる立場から意見を言わせられる立場になった次第である。私自身、新聞で演説の内容を見た範囲内では目新しいものは無く、国内で話している事を言った程度に過ぎないと思う。アメリカ人記者の結論を先に述べると、日本の首相も今迄

は一介の地方議員に過ぎなかったのが今回の大平訪米でやっと中央の議員になって、話し合いのテーブルに着く事が出来ただけであって、これからの話し合いの内容の評価についてはまったく解らないと言う事である。

地区長の支部会議の報告を聞く



寛いで議論を交す面々

我が京橋地区の例会が四月一三日午後六時よりレストラン・スギヤマに於て行われた。組合員一四社、地区の中でも少ない部類に入るのだがそれだけに出席率も満点。全員出席の結束を誇る。小宮山支部長にも参加いただき活気ある例会となった。初めに小宮山支部長よりご挨拶をいただき、最近の支部及び本部の動き等を説明してもらい、次いで坂田地区長より組合の近況報告及び第二次構改(安定成長計画)の報告等、次いで五三年度の地区会計報告があつて乾杯。雑談に入る前に坂田地区長より今回の例会のテーマを「組合について」とし、この雑談をカセットに録音し、後日編集して「京橋の印刷」に寄稿したいむね発言があつた。話題の始めは秋の旅行先についての組合員より発言があり、地区長一任で全員一致した。次いで最近の景気動向について各組合員の意見及び印刷業界全体に関係のある価格体系の見直し等活発な意見がどんどん出た。

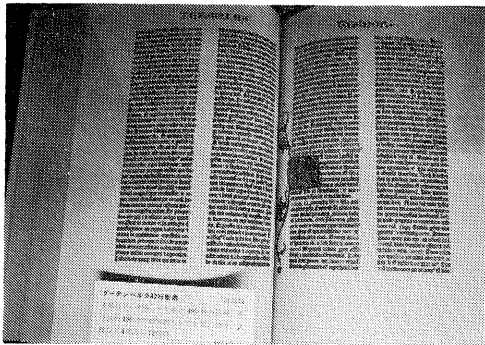
録音テープの片面が終つて裏返しに切り換える頃になると各組合員の意見もア

ルコールの量と比例して一段とボリュームアップ。「組合存続論」・「組合価値論」等貴重な意見が沢山出された。皆さんの意見を総合すると肆前論はともかく、率直で素直な本音論を積み重ねて何か一つ位印刷業界全体のコンセンサスを得るような行政を期待するということであつた。地方議員より国会議員になり国政を担当するようになると扱う問題も多く、一つの問題をまとめるにも苦労が多い事とは思ふが、話し合いのテーブルに着くことが出来るような土壌とそのテーブルに一人でも多くの人々が参加できうる強力な行政指導を希望したいものである。カセットテープを完全に編集し直すとは膨大な数量になるので要約して記事にした次第です。(三徳印刷株)

プリンティング・フェア (II)

'79 TOKYO を見学して

東京都印刷工業組合主催のプリンティング・フェアが多くの後援と協賛を得て、三月二三日より二五日まで開催されました。私もユーマーと一日研修を兼ねながら、見学しました。まず、プリンターコーナー、ユーマーコーナー、サービスクーナーとに分けたのはヒット、プリンターズコーナーでは、各種委員会の研究課題が身近かに感ぜられ、しばし熱っぽく質問係員を閉口させる時もありました。ユーマーコーナーでは、出版関係



水野コレクションのグーテンベルグ42行聖書

のお得意様と同伴のため印刷発注法・印刷物よりも印刷産業の地位と役割、優秀製品により多くの時間をかけ、特に水野コレクションには感動しました。パピルス文書、グーテンベルク印刷、地図、日本書紀、瓦版とどんどん時間が過ぎてゆくのでした。サービスクーナーでは、珍しい本、貴重な本が無造作に展示されているのに驚く。又紙の博物館・大蔵省印

刷局の展示品もこの様な機会がないと見られない逸品ばかり。機材展示コーナーでは、受注への対応と省力化、コストの低減とメリット、品質の向上とスピードアップが今日の課題と明日への飛躍を証明する各社のエキスパート・ヒーローたちが、印刷産業のニーズに答えるべく展示されておりました。

抽せんコーナーでは、特等のカラーテレビを持ち帰るべく、三角くじを「エイ」と引き見事3等、その景品のシャープペンシルでこの原稿を書いております。記念品と共にコーヒーを飲み、まずは忙中閑の雨の中のプリンティングフェアの一日でした。

宇野印刷棟 山下浩二郎

掌編小説 (フィクション) 給食センター

ものがたり

小 岩 陸奥雄

宴は酣である。澄江も京子もヨリ子も舞台にあがって炭鉱節を踊っている。先程から遠慮しながらも吸うようにして飲

んだお酒がきいてか、どの顔も上気して、ほんのりと眼のふちが赤い。やんやの拍手をおくられると、足どりも軽やかに踊りのテンポはたかまり、遂には踊りながら唄い出していた。踊りの輪はひろがり男達も参加して舞台は人々があがり切れなくなっていた。

今日は給食センター創立15年目の決算総会なのである。澄江も京子もヨリ子もレッキとした製本会社の会長夫人であり社長夫人である。踊りが終ると席に戻って、今度はビールを飲む。「もう十五年もたったのかねえ。私達も年とったよねえ」。澄江は三人の中で一番酒が強い。遠い記憶をたどるように眼を細めながら

対話へのかけ橋

1枚の封筒にも
大きな使命が
かせられています。



山口封筒

本社 〒104 東京都中央区八丁堀2-2-7 電話(551)1151(代)
工場 〒132 東京都江戸川区西端江4-21 電話(652)7721(代)



隣席の京子に声をかけた。「なにいつてんのよ。これからじゃないの。それよか丸山さんの今日の挨拶、上手だったねえ。こんだ区会議員にでも出たらどうなのさ。」丸山さんは給食センターの理事の一人であり、澄江のご主人である。「おだてたつてだめよ。あたしヤトウちゃん挨拶が終るまでは、いつでも心配で心配で、心臓がドキドキするのさ。昔なんか、上手にしゃべろうとすると、ますますあがつちゃってねえ。」と満更でもない。

「いまから十五年前、私共製本屋は、仕事もしなければならぬ。従業員の食事の準備もしなければならぬ。納期は迫っている。体がいくつあっても足りないような毎日でした。そんなとき、皆で、共同で弁当がつくれたらどんなに楽だらう。誰からともなくそんな声が出て、この給食センターが生れたのであります」……丸山理事の挨拶の一部である。「あのときはさ、父ちゃん達に反対されたつてねえ。そのときヨリちゃんな

んか夫婦喧嘩までしてさ」京子が言ううと「あのとき、お腹に芳坊が入っていたのさ。だから、ただでさえ忙しいのに組合をつくるのなんのって、少しは自分の体を考えて、むしろ私の体を心配してくれたのよ」と、ヨリ子も昔のことを思い出してなつかしげに話すのである。芳坊こと芳文堂製本の長男芳太郎はもう高校一年生になった。三人は大の仲好しで、会社も隣近所なのである。明日の昼食は何にしようかと買物籠をさげて店屋へ行くと、よく顔を合わせ相談しあつたものである。昭和三十八年。戦後の苦しいところはひと山越えたものの、製本会社の求人難はきびしいものがあり、給食の面倒も、労務対策上ゆるがせにできない重点項目であつた。

いつもリーダーシップをとるのは澄江だつた。「明日はカレーにしよう」と、澄江が言うと、京子もヨリ子もそれにきめるのであつた。「こんなことなら、二十軒か三十軒が集つて共同炊事やつたら良いねえ」とヨリ子が言い出した。三人の中でヨリ子だけが女学校出のハイカラさんで、発想力は他の二人より勝れている。このあたりは印刷会社と製本会社とが軒並みに商売をしているのである。八丁堀とか湊町あたりは、町内だけで百社ぐらいは同業がある。

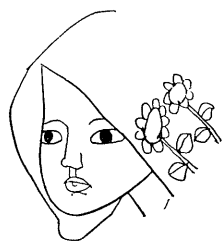
丸山理事の挨拶が続く。

「現在は毎日のお昼の弁当が二千五百食前後にまで発展しております。それと

いうのも我々製本業にとっては、お仲間というよりも、むしろお得意先の場合が多い印刷会社の皆様からも大量のご注文を頂いているからにはほかなりません。物価高騰の折であります、一食二百七十円の定価を据置するために、職員の昇給も我慢して貰つたり、仕入関係なども種々研究してなんとか値上げしないで済むように努力しているのであります。」

「やだねえ、社長の話は調子にのると長くなるんだから」と澄江が、廻りに気兼ねして小声でしゃべるとヨリちゃんが袖を引いて、「社長ちゃんなくて父ちゃんでしょ」……「静粛に、静粛に……」後から京子がからかった。

「それでもね、二百七十円でさ、五食でも十食でも配達でしょ。組合制度だから利益主義じゃあないんだけど、ポイラーも何年かにはとつかえが出るし、経営となると大変みたいよ」「こないだの理事会の旅行なんかおね、理事の報酬を出しあつて行つたみたい」父ちゃんの話はそつちのけで、澄江と京子の話は次第に熱がこもつて来る。



和・欧文 活字
材料 / テープ・メタルベース 他
インキ / 阪田大日本東京東洋各

和・欧文 各パンフレットあります



株式会社 京橋岩田母型

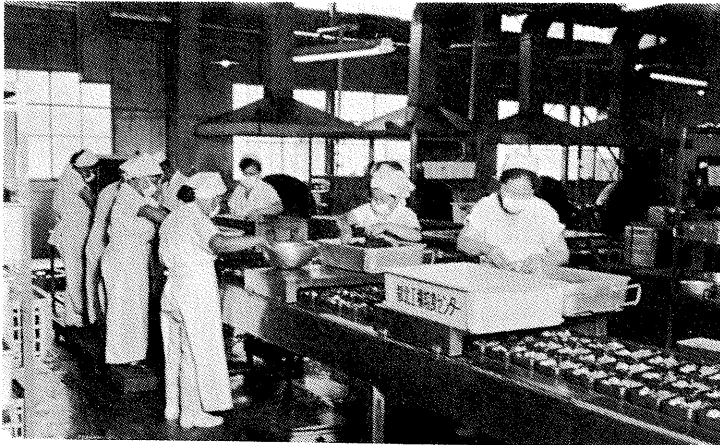
551 - 1380・2830・(店頭)2827

△トウのビジネス封筒
名刺・カード・はがき

- 営業品目
- 事務用和洋封筒
 - 名刺用紙
 - 私製はがき
 - 招待状カード
 - マド付封筒
 - R O マド封筒
 - D M 用封筒

株式会社 △トウ エニパック

- 本 社 東京都江東区永代1-2-1 電話(642)1141 (代表)
- 配達センター 東京都江東区永代1-1-7 電話(643)3237 (代表)
- 支 店 城南(727)4141 本郷(643)7461 城西(994)5151 浅草(643)7851
- 栃 木 工場 栃木県宇都宮郡野木町友道 電話02805(5)2100 (代表)



準備にいそがしい清潔な給食センター

「それでは、宴もたけなわではございますが」と総務の田中理事が中締の音頭をとった。「澄江ちゃん、今夜はおたのしみね」とヨリ子が澄江の脇腹をつついた。丸山夫妻は給食センターの寄合いのあとは必ず連れ立って二人だけの二次会を楽しむのである。総会のあとは理事達が残って後始末をするのであるが、丸山理事だけは特例があった。「丸山さん、奥さんが表で待ってますよ。」理事長が、気をきかせて発言すると、本人も悪びれ

ずに、「それじゃ、今日は母ちゃん孝行するかね」とにこにこし乍ら先に失礼した。丸山夫妻の行先は謎めいていたが皆さん下町っ子である。くだらない詮索をするような人はいない。

筆者註、私は昨年、印刷組合の方から出向の形で中央厚生事業協同組合(通称給食センター)の理事を拝命しております。何度か、献立会議や理事会に出席させて頂きましたが、理事会といっても皆さん気が知れた隣近所のおつきあいよろしく、ワイシャツにネクタイ姿は理事長と専務理事ぐらいで、あとはノーネクタイの方がかり、お仲間に入れて頂くにはワイシャツをぬいで行かなくてはいけないみたいな下町風情を肌感するのです。私は営業担当理事なのですが、特別な能力もありませんので、センターの皆さんの人情、気風などを印刷会社各位にお伝えしたい気持で、拙文を書きました。文面の人名、内容のすべてはフィクションなので、ご了承ください。

今後、ご利用頂く方のために、給食センター利用のあらましを下にのせてみたいと思います。

◎給食センターの利用法

それでは、この給食センターの利用手順を申し上げます。多数の申込を待って居ります。

① ご希望の事業所は、先づ試食してみして下さい。試食はTEL五五一―四九二六事務局(野沢)まで申し込んで下さい。

② 職場の皆さんの希望がありましたら、次の二通りの受給法があります。
イ、組合員となる場合、出資金一口一万円以上を拠出
弁当価格 一食二七〇円
ロ、組合員とならない場合、
弁当価格 一食二八〇円

③ 代金支払 ご指定の締切日で請求書を送付しますので十日以内に、お支払い下さい。(原則・銀行振込)

④ 数量の訂正 基本数を、届けて置きその増減は、原則として前日の午後四時までにご連絡が必要です。

当日朝八時五〇分から九時二〇分までの間に申し出て下さい。



プロセスインキの最高峰

New Champion

Super Apex



大日本インキ化学

印刷製本が支える 組合給食

事業主と従業員の栄養源
健康を守る

給食センター

中央厚生事業協同組合(551)4909

理事長 清水 栄之助
◎ご利用をお待ちして居ます

地区だより

月島地区親睦旅行

空模様が気がかりで何時もより早めに目が覚めた。前夜の天気予報では雨でそれも相当の雨量との予報であった。今日は四月一八日、月島地区の年に一度の親睦旅行の朝だからだ。そんな気苦労も何所へやら思わぬ好天に恵まれて、午後一時に約束の東京駅八重洲中央口銀の鈴下に集合。一三時三七分東京発熱海ゆきの列車に乗り込む。六号車中央の席を差し向いに回転し四名ずつ三組の総勢一二名。日頃は商用や旅行には新幹線を利用してはいるが、今日は鈍行の各駅停車と洒落れこんで、ゆったりとした気分になる。何時か何処かで聴き覚えた「どこか遠くへ行きたいな」のメロデーがうかんでくる。早速に旅行幹事の岸さんから気付けの良薬を差し向いの席にボトル一本とお摘まみが配られる、旅にはかかせぬ逸品”の声がかかる。

鈍行の車窓からの景色も懐かしく、品川から川崎、横浜を過る頃には何方も頬を紅潮させ上気嫌、華やいだ談笑で一杯である。二時間はおかかると云われていた事など忘れて、何時の間にか真鶴駅に着、改札口を出るまもなく旅館からの出迎えのマイクロスバスに乗り込む、車は真鶴半島の突端に向い尾根づたいにくねくねと登って行く、あたりは鬱蒼とした自

然林で樹令三〇〇年以上と云われる美事な樟の大木や枝ぶりのよい松の間から、青くさわやかな海が見えかくれする。一〇分程で真鶴サポテンドリームランドの手前の小さな入江の岩場の上の旅館「原忠」の玄関に横付けされる。幹事さんの顔なのか大変な歓迎ぶり、真新しい座敷に案内された。眼下の相模灘が、潮騒を奏でる落ちついたイメージの部屋である。

早速ひと部屋に集り地区例会の開催、今日は報告事項だけで、早々と麻雀を楽しむ組や、宿の釣竿を手に磯遊びに出掛けた人々が帰ってきて、ひと風呂浴びると、宴会の準備が整ったと電話のベルで知らされる。定刻の六時であった。

広びろとした宴会場からの眺めも素晴らしく、遠近の漁り火の彼方に、湯河原、熱海、網代、伊東などの街の燈のキラめく夜景に、旅の情緒もひとしおで、新鮮な磯料理は大きな船盛り三ばい、それぞれ真鯛、石鯛が大きな口をばくばくと動かし、尾鰭を振るわせている、今回の旅行幹事の企画は、組合員皆さんは旅慣れしていて、既に名所旧蹟や観光地は行き尽くされているので、料理の旨い穴場狙いであったので、次つぎと出て来る料理の多いこと、味の良さに、流石に口の奢った面々も大喜びで、交す盃も忘れ得ない想い出となり、次に来る予約をする方もある程で、いつものながら長正社の増田社長長のノドに聞き惚れ、宴会も最高調に全

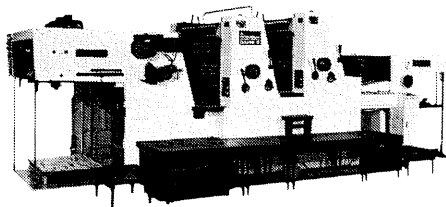
員合唱と……。酒量も大分超過さきみで、熱海の一〇〇ドルの夜景も堪能できずに、床に入ったのも判らぬ程で夜が明けてしまった。

翌朝おき抜けにひと風呂浴びると、旅館下の磯に数人の若い釣人に混って浴衣姿で、竿を振る仲間の姿がみえるが、凧のせいか釣果は上ってない様子。程なく朝食となったが、幹事の肝入り、夕食かと思うような料理がでて、お銚子がついている、または朝から宴会。午前

〇時予約のハイヤーが来たとの知らせで切り上げとなる。ハイヤー三台に分乗し半島の東海岸にある旅館の売店に立寄り土産物を購入、湯河原を経て熱海は錦ヶ浦の周智観音堂へ。熱海城下のトンネルを抜けると直ぐ左側に駐車場がある、その前の細い石段を登ると御堂があり、大変な賑わいだ薄暗い本堂は多勢の善男善女で一杯で、座って管主の説明を聞くのに膝とひざがぶつかる有様で、仏の解説の合い間に、どつと上がる笑い声は、殆んどが女性で、何かの見世物小屋である。とにかく靈験あらたかな、参詣が終

り、熱海・箱根方面では行く所もなく帰途につき、新幹線で東京に帰着、開散かなと思いきや、これから新橋へと繰り込み、帰宅したのは何時になったのか、幹事はそれでもまだ会費が余っていると報告していた。兩具持参の方が何人かあったようだが、二日間桜日和に恵まれ、今年の旅行会も無事終了した。安西定治

決定！ オフ下請なら 宏洋社



菊全2色三菱NEW DAIYA II-2N 稼動開始

中央区湊2-7-2 (有)宏洋社 ☎551-9992

親しみをこめたおつきあい



文化産業信用組合
京橋支店

理事 湯 浅 時 夫
支店長

東京都中央区八丁堀4-13-1 ☎551-9625代☎104

告知板

印刷図書館のご案内

印刷に関する種々の知識や情報の宝庫である印刷図書館は、京橋支部の隣室にあります。組合員や従業員の方々の活用をお勧めします。内容は次のとおり。

○印刷図書館は、和書約四千冊、洋書約三千冊を所蔵、無料公開しています。内外の最新雑誌等もあります。

○印刷図書館は、最新の情報源を自由に、無料で、誰でも利用できます。開館は、平日十時—十七時、日曜祝日は休館です。

○印刷図書館は昭和二三年に創立された財団法人で、印刷界、関連業界の人々の善意と熱意によって維持されています。現在維持会員数は、約二百五十社です。維持会費は一口一万

五千円の年会費です。

貸出しと複写は維持会員に限り、特別のサービスを提供しています。(圖書の貸出、レファレンス・サービス、読書会、印刷史談会、講演会)

印刷図書館ニュース、図書目録配布等々)

○印刷図書館の所在地は次のとおり。新富一の十六の八、印刷会館3階、電話五五一〇五〇六

尚、詳細は、直接問合せ下さい。

全印健保会館卓球施設 利用案内

全印健保会館には、卓球室があり、誰でも利用できます。全印健加入者及家族は一時間五十円、一般は八十円です。場所、新川一—五—十三、電話五五一—九三〇一

支部の動き

4月4日、支部長会、於印刷会館。

小宮山支部長出席、矢板理事長よりプリンティングフェア開催の協力について謝辞が述べられた。

4月6日、京橋支部印刷人青年会発足の準備会を京橋支部にて開催。小山、長島両副支部長及び尾島、小倉、三好、岸の東青協議員と発足について

話し合い、次回は各地区より代表者が集まって検討する事にした。

4月9日、部長会、地区長会開催、於、京橋支部会議室、53年度事業報告、取支決算等について検討を行う。

4月16日、於・支部会議室 京橋支部印刷人青年会の準備会開催、小山、長

島両副支部長、小葉地区長及び各地区からの青年代表員が出席し、本部戸塚課長より各支部の青年会の現状について報告をうけ京橋支部青年会

のあり方を検討する。

4月23日、京橋支部印刷人青年会の第4回目の準備会開催、小山副支部長ほか各地区の青年代表が参加討議し、六月八日に発会を挙行することに決定する。

4月27日、中央区役所主催、中央区新入社員歓迎会が中央会館にて開催され多くの新入社員が集まり、横関区長から激励され、記念品をもらった。

4月27日、京橋電気安全協会総会開催、小宮山支部長出席。

慶事

4月15日、築地地区長の永和堂綱社長、神田半三氏の三男である千也氏が、ご結婚されました。おめでとうございます。

4月30日、銀座地区組合員、日本浮出印刷社長、植木重元氏の長女淳子さんがご結婚されました。おめでとうございませう。

編集後記

▼五月は一年中で一番雨の日が多いのだそうで、どうも梅雨どきの方が多いような気がするのだが、まあそのことは統計的に実証されているのかも知れない。それはさておき、五月の連日の天気予報では、雨や曇りの日が多かったが、幸いにして予報ははずれて好天に恵まれて、久々に英気を養うことができた。五月は新

㈱文海堂 営業部を移転

銀座地区のしにせである㈱文海堂(松岡繁夫社長)では、かねて新築中の三雄建ビルが完成し五月一日より中央区銀座一—廿四—二に営業部と経理部が移転した。電話は、五六七—二三六一(代)である。
なお銀座二丁目の本社工場と深川工場は従来通りである。

緑が美しく目にしみた。

▼前号でマラソンの折り返し点から地方を發揮したいと支部長が訴えているなかで、月刊誌「京橋の印刷」をはじめにあげられて、「順調に進展したとは申し兼ねる」。専門スタッフを持ち合せないことと述べられている、その通りであります。しかし、今月は二号を続けて発行することになってしまったが、編集部としては原稿さえ集まれば出来ること、が実証されたので、陸続する投稿をお願いする次第である。

▼来期は執行部全員が編集部員の気組んで対処すると言われている、誠に結構ではあります。が、編集責任者についても、この辺で交代してもらいたいものです。よんでいる水は腐るの譬えのように。編集内容がマンネリ化してしまうと思ふ。少し休んで学習をして、うちに蓄えるものを身につける必要があると思ふ。